児童の異文化コミュニケーションにおける社会的相互作用の発達(2)

映像制作を通してみた相互作用と異文化理解から

○中田 栄

(帝京大学)

キーワード：社会的相互作用，異文化コミュニケーション，伝達能力

A development of social interactions on intercultural communication :

from the viewpoint of social interaction and improve communicative competence along with intercultural understanding

Sakae NAKATA

(Teikyo University)

Key Words: Social Interactions, Intercultural communication, Communicative competence

目 的

映像制作を通した表現能力やコミュニケーション能力の育成は不可欠なコミュニケーション技能とされる。そこで、コミュニケーション能力の育成のための映像制作の支援の経過について報告する。

まず、映像という世界に共通した言語で自己表現ができる基礎的機能を発達のレベルに応じて支援し、児童の理解を促すことを目的とする。ここでは、米国の文化についての映像を紹介し、米国の文化への理解を促すとともに自分の国の文化について調べる課題を用いた。

国際理解のために児童が自分たちの文化を伝えるための映像をつくることを支援するため、これまでに制作した映像の例を見せ、身近な役割の乗り物を調べるという子どもたちの興味のあるテーマを取り上げ、調べる課題をとりいれた。今回の映像制作の課題では、編集の過程において自らが情報の作り手となる体験を通して、情報への適切な判断力を体得させることを目的とする。

なお、映像制作は多様な価値観を受け入れ合い、共同で作業することが求められる。協力しあって役割を分担し、協力を求めることで、達成していくことが求められる。映像制作によって、情報交換、意見交換など、映像を自らが制作する経験によって、意欲的なコミュニケーションにつながるものと考えられる。

方 法

研究対象:11 歳から 13 歳までの米国と日本の児童 40 名の中から、本研究では、特に米国の児童(A 児、B 児、C 児、D 児、E 児、F 児、G 児、H 児)と日本の児童 8 名の活動とのかかわりを取り上げる。

材料:写真 24 枚(人のコミュニケーション場面を並べ替えてストーリーをつくるための写真)。

写真図版(計 24 枚):日本と米国の児童の生活を紹介した写真。それぞれが所有する写真(12 枚)と日本と米国の文化についての写真(12 枚)の合計 24 枚を使用し、お互いの文化を紹介し合うことができる。

手続き: 期間: 2013 年 4 月～5 月。

観察場面:児童の発達に応じた異文化理解のための選択を促す活動
内容: カメラを使って、身近なテーマを調査し、情報の選択を行う。

結 果

米国の子どもが Toontastic を用いて、友達や親と一緒に物語を作った。お絵かきソフトで絵を描き、友達と一緒に米国の児童の表現を見た。Toontastic は子どもに物語を読んだり、聞いたりすることだけではなく、物語を作って並べ替えることでストーリーが変化すること伝え合った。Toontastic で、ストーリーを作るだけではなく、

気づいたことを伝えることによって、考え方の違いを受け入れ合うことができた。

Table 1. 相互作用過程の記録を Table 1 に示す。

Table 1. 相互作用過程の記録

子どものコミュニケーション

A: Can you give me a hand?	A: 「手伝ってくれない?」とお願いする。
H: Give me a hand!	H: 「手伝って」と一緒に呼びかける。
C: Could you give me a hand? E, F?	C: E と F に対して、「手伝ってくれる?」と聞く。
D: Hey, G, can you give me a hand with this video camera?	D: G に向かって、「このカメラを運ぶのを手伝ってくれない?」とお願いする。
B: Hey J, will you give me a hand?	B: J に対して「手伝ってくれる?」と一緒に頼んでいる。 (J は手伝う)
J: Okay.	B: 本当? それでうまくいくと思う?
B: Really?! You think that will work?	もちろん! もしうまくできなかったら帽子をくれる?
Absolutely! And if it doesn't, can I get the hat?	
Keep in mind, he's never used this video camera before, you're gonna see how easy this is to do.	忘れないで、彼はこのカメラを一度も使ったことがないし、どれだけ簡単か今からわかるよ。 (再生する)
Hey! B, check it out.	ちよつと B、見て! (物語を作って速さを調整しながら再生した画面を指差す)
Check it out, we're Toontastic	米国の子どもが Toontastic を用いて、友達や親と一緒に物語を作るところを見る。お絵かきソフトで絵を描く活動を友達と一緒にみる。
Yeah, I should have told you.	

考 察

異文化を理解するには、相手の立場から物事を理解しようとしてみるために、映像制作を通じて発信する側の立場を体験することを支援した。情報を受け取る側から発信する側になることで、制作者の意図がどのようにして映像に影響し、見る側にイメージを与えているかを理解し、情報を読み解き、異文化理解に活用する力を身につけていくことに役立った。異文化理解では、多様な視点からの思考が重要であり、カメラを使って他者の視点からの捉え方に気付かせる活動となった。映像制作を通した異文化理解では、価値観や習慣の違いを意識しながら子ども同士のコミュニケーション能力を支援することによって、子どもが映像の提示の順番で異なるメッセージになることや意味づけが異なることに気付かせることに役立った。

引用文献

Nakata, S. 2008a Emotional control of the children in stress coping and the process of the resolution. *Paper presented at the 29th International Congress of Psychology* (Berlin, Germany).